

## 米国の作付決定を予測： 圃場からの展望

### 目次:

- 2 ページ：エタノール代表团
- 3 ページ：コンテナ輸送
- 4 ページ：ソルガム収穫最新情報
- 4 ページ：Robert Hurley を迎えて

**米** 国では収穫が終了し、農家は既に来年度の作物計画を立て始めています。豊作が予測されトウモロコシの価格が大幅に下落した年の後とあって、2015年の作付を決定するにあたり、米国の生産者は数多くの要素を検討しています。アメリカ穀物協会はミズーリ、アイオワ、テキサス各州の農業従事者との話し合いの場で「作付をする作物はどのように選択するのか」という質問をしました。

### アイオワ州、トウモロコシ・大豆農家、Dick Gallagher 氏

Q：毎年作物をそれぞれどれほど作付するかをどのように決定していますか。

A：私は過去 41 年間トウモロコシと大豆を 50：50 で輪作してきました。ずっとそのようにしてきたのです。この 50・50 輪作で何年もうまくやって来られました。だから同じような計画を立てています。

Q：作付決定をするにあたり、何が最も重要な要素ですか。

A：我々にとって最も大きい要素は投入コストです。トウモロコシは大豆より高コストですからね。来年も豊作なら、2016年の投入コストは低くなると思います。投入コストは低下すると思いますが、今年については大きな低下は見られませんでした。

Q：あなたの地域ではこの 1 年と来年とを比較して作付決定に変化があると思いますか。

A：決定は年初になりますが、この地域ではトウモロコシを大豆に多少切り換える可能性はあると思います。しかし、私が話をした人々の中では変更する予定のない人も 2、3 人います。変更しないかほんのわずか大豆の割合を増やすか、その程度の違いと考えます。

### テキサス州、トウモロコシ・ソルガム農家、Charles Ring 氏

Q：毎年各作物をどれくらい作付するかを決定するのに参考となるものは何ですか。

A：それは輪作状況やテキサス南部の降雨量によります。2012 年度は干ばつだったため、灌漑地にだけトウモロコシを作付しました。昨年は雨の多い年だったのでトウモロコシを増やし、非灌漑トウモロコシを導入しました。

Q：作付決定をするのはいつ頃と見込まれますか。

A：テキサス南部では、トウモロコシの作付を 2 月の第 1 週か第 2 週に開始します。その決定は 12 月に行なわなくてはなりません。ここよりも気温の低い中西部の生産者は、3 月下旬に決定します。我々は 3 月上旬にソルガムを作付します。そこで決定は 12 月を少し過ぎてから行ないます。

### ミズーリ州トウモロコシ生産者協会次期会長 Kevin Hurst 氏

Q：貴会の会員は毎年各作物をどれほど作付するかをどのように決定していますか。

A：ほとんどの会員は輪作をしているので、その輪作を継続する予定です。価格はもちろん検討材料ですが、それが今後を決定するわけではありません。市場はトウモロコシを必要としているので、1 年のうちにはその作物を作付して十分見合う価格になるところがあります。

2 ページ、「将来の作付決定」をご覧ください。

## エタノール輸出の市場可能性を見出す

9月、アメリカ穀物協会、再生可能燃料協会（RFA）およびグロース・エナジーは米国産エタノールの海外輸出の可能性を探るために、当初定めた3回にわたる代表使節団のうち最初の団体を派遣しました。この代表団は様々な市場を訪問しエネルギーセクターの責任者と会合をもち、地域のバイオ燃料とエネルギーのニーズを把握することになっています。

国外滞在中、チームは共通に関心を持たれる分野およびバイオ燃料に関わる各地域固有の要求事項を調査する予定です。チームはさらに、訪問先に対し拡大するエタノールの供給可能性やガソリンに代るクリーン燃料としての潜在能力について説明したいと考えています。

### 日本および韓国のリーダーとの会談

先頃の日本と韓国への訪問では、米国側の代表者は、政府高官や政党、エネルギー研究者、商社との協議を通じ、これらの国それぞれのエタノールへのニーズを知るために時間を取りました。チームには韓国のエタノールプラントや研究施設を視察する機会も与えられました。

「日本と韓国の現在のバイオ燃料の需給状況について理解が進みました」。この代表団の一人である、Lincolnland Agri-Energy社のゼネラルマネジャー、Eric Mosbey氏はそう言います。

「この会議により主要バイヤーやエンドユーザーたちと、クリーンで再生可能な燃料源である米国産のエタノールについて話し合うことができるようになりました。この訪問は将来の協議の土台となるものです」



韓国のエタノールプラントの視察をする 代表団のメンバー  
出典：USGC

### USGC 等団体のニューフロンティアとなるエタノール

この訪問は、今年に入って米国農務省（USDA）がマーケットアクセスプログラム（MAP）によるエタノール輸出の促進を発表した時点で可能となりました。このプログラムは米国の農業法案の一環として、世界中の米国農産物輸出推進事業に対し共同出資するものです。当協会も含め、MAPを通じて米国産農産物の市場開拓に取り組む団体は60以上もあります。

日本と韓国における好調な滑り出しを得て、チームは今後ラテンアメリカと東南アジアへの訪問を予定しています。その目的は、これらの国々のエタノール市場の事業機会を見極め、米国が世界の多様な市場の個々のニーズに対応し最適なサービスを特定できるような強固な関係を構築することです。◆

## 将来の作付決定...1 ページの続き

Q：メンバーの方々が作付決定するにあたり、最大の要素となるものは何ですか。

A：窒素肥料の価格が分かったのですが、少し値上がりしていて驚きました。しかし、全体的には従来の方針に沿って物事が進んでいくと思います。通常と大きく変わりそうなことはありません。

Q：今年の作物価格は、来年の作付決定にどのように影響しますか。

A：我々には影響はありません。また、大多数にとってもおそらく影響はないと思います。価格とコストの差は大きく変化していません。我々が何を作付する必要があるか、そして利益を得られるか引き合うかは、年の一定の時機に市場によって決定されます。◆

## 米国産穀物向けのコンテナ輸送を知る

**来**年は、米国産の粗粒穀物やその併産物が大量に輸出に向けられることになりそうです。穀物を米国の農場から全世界の顧客に届けるひとつの方法としてコンテナ輸送があります。



出典: Reuters/Stringer

### コンテナ輸送の利点

コンテナ輸送により貨物は船舶から直接貨車やトラックに積み込むことができるので、港から飼料工場等の仕向先までの迅速な輸送が可能になります。輸送がこのような簡便になると、穀物が港に到着した後長距離輸送をする必要がある多くのバイヤーの利便性も増します。

コンテナで出荷した農産物の安定した品質を享受するバイヤーもいます。この方法で輸送される穀物の取り扱い手間は最小限です。全輸送工程中コンテナで分離されているため、不適切な混入や混合が起こることもほとんどあ

りません。

「分別流通するコモディティ商品をなるべく混合せずに購入したいバイヤーはコンテナの使用に注目することが多くなるでしょう。コンテナはそのほとんどが米国の内陸部から来ていますからね」とカンサス州立大学の国際穀物プログラム担当上級農業エコノミストの Jay O'Neil 氏は言います。「コンテナは大半が生産地に近い農村地域から出荷されます」

### コンテナ輸送を利用するための検討事項

コンテナの取り扱いには適切なインフラが必要です。バイヤーの好む輸送方法はそれぞれの状況とニーズに依存することになります。

「通常少量しか必要でないバイヤーにとって、コンテナは非常に魅力的で便利な手段となります」と O'Neil 氏は言います。「そうしたバイヤーは米国産のコモディティ商品をその目的に応じた量で海外の仕向地に届けることができます」

コンテナを利用する穀物の輸送量は、複数コンテナの利用コストが要因となり少量になりがちです。コンテナ輸送はまた、比較的移動させることが簡単なことから、穀物の長距離移動が必要な場所でよく利用される傾向にあります。

### 稼働率に基づき運賃は低水準に留まる

翌市場年度、予測されるコンテナ運賃および乾物ばら積み輸送運賃は、大型の船隊のおかげで低水準に留まっています。今年のコンテナ輸送運賃の見通しは3年~4年ぶりの安値にまで下落しました。

「全体的には、運賃は低水準にありバイヤーにとっては魅力的です」O'Neil 氏は言います。「コンテナ運賃は過去数年で最も低く、乾物ばら積み輸送運賃は依然過去最低の水準です」◆

詳しくは、アメリカ穀物協会の Facebook、Twitter および YouTube の各サイトをご覧ください。

[Facebook](#)

• [Twitter @USGC](#)

• [YouTube](#)

## WASDE リポート、依然ソルガム余剰を伝える

最新の米国農務省（USDA）世界農産品需給予測（WASDE）リポートによると、2014/2015 市場年度の米国産ソルガムは高収量が予測されます。米国はまた、米国産ソルガムの最大輸出市場である中国等の地域の需要が依然強いことから、堅調な輸出も予想しています。



出典: MSU Ag Communications/Kat Lawrence

### 作付面積縮小でも高収量を期待

9月のWASDEリポートでは、作付面積が多少縮小したにもかかわらず、全体のソルガム生産量は昨年から目覚ましい増加を示しています。2014/2015 市場年度（9月1日～8月31日）の予測生産量は、1090万メートルトン（4億3000万ブッシェル）で、昨年の総生産量は、990万トン（3億8900万ブッシェル）でした。今年の作付面積は約300万ヘクタール（750万エーカー）で、2013/2014 市場年度の242,916ヘクタール（60万エーカー）縮小しました。

こうした予測は単収の大幅な増加に基づいています。WASDEは2014/2015期の単収については、昨年から増加して、1ヘクタール当たり4.2トン（1エーカー当たり67.2ブッシェル）を予測しています。

### 大量の輸出向けソルガム

高い収量を得られ国内消費にほとんど変化が予想されていないため、USDAは2014/2015期米国産ソルガム総生産量のうち半分近くの510万トン（2億ブッシェル）が輸出されることになると予測しています。それでも需要が依然強いことから、ソルガムの価格には顕著な下落は見られていません。

米国は、8月31日に終了した2013/2014市場年度では、ソルガムを中国に470万トン（1億8500万ブッシェル）輸出しました。日本とメキシコもまた今までどおりそれぞれ322,000トン（1270万ブッシェル）、114,000トン（450万ブッシェル）を輸入する、米国産ソルガムの確実な買い手となっています。◆

## USGC 中国担当ディレクターに Robert Hurley を迎える

アメリカ穀物協会とともに、中国事務所プログラム担当ディレクターに着任する Robert Hurley を歓迎してください。中国チームの一員として、中国 USGC ディレクター、Bryan Lohmar と緊密に連携し、当協会の貿易サービスプログラムの計画・促進に取り組みます。彼は、マレーシア、クアラランプールに拠点を置く、USGC 南・東南地域担当ディレクターに昇進した Kevin Roepke の後任者です。



「Robert は貿易で優れた経歴を持ち中国で広範に活動してきました」と USGC の会長兼 CEO の Tom Sleight。「業務に新たな視点を持ち込み中国での活動強化に貢献してくれることでしょう」

アイオワ出身の Hurley は、中国市場で様々な経験を積んできました。当協会に入職するまでは Shandong New Hope Liuhe Group の穀物マーチャンダイザーでした。中国語が堪能で、World Pork Expo 社とアイオワ州経済開発機構において翻訳者として勤務したこともあります。

Hurley はアイオワ州立大学で経営学の学士号を取得しています。

ようこそ、Robert。◆

詳しくは、アメリカ穀物協会の Facebook、Twitter および YouTube の各サイトをご覧ください。

[Facebook](#)

• [Twitter @USGC](#)

• [YouTube](#)